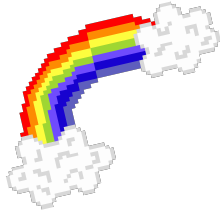




イスラエルの回復のために祈りましょう



ウルグアイのユダヤ人

人口:32,500 人

■「ガウチョ」と呼ばれる、人目を引くカウボーイたちが、最初にアルゼンチンとパラグアイからウルグアイにやって来たのは、17世紀のことだった。家畜の豊かな群れと、それらを養うならかな大草原に魅せられ、彼らはこの地で自由奔放な放牧生活を楽しんだ。その時から1世紀後、ユダヤ人もまた信教の自由と、よりよい生活を求めてこの地にやって来たのである。

■ウルグアイで一番大きなユダヤ人コミュニティは、首都のモンテビデオにある。彼らはかなり現地の人たちに同化しているが、東欧アシュケナジ系、セファルディ系、ドイツ系、そしてハンガリー系という4つの共同体組織に分かれている。それぞれの共同体に独自のラビたちがおり、施設、学校、出版物、そして文化活動がある。ウルグアイに住むユダヤ人の子供たちの約三分の一は、ユダヤ人学校に通っている。公用語はスペイン語で、ユダヤ人学校の教育課程は、スペイン語とイディッシュ語で行われている。

■ウルグアイの主要な都市部であるモンテビデオには、六つのユダヤ教会堂があるほか、ユダヤ博物館や、今や国の歴史的な記念館ともなっているホロコースト記念博物館がある。また、テアトロ・ソリス歌劇場の隣には、イスラエルの元首相、故ゴルダ・メア氏の記念碑が立っている。

■ウルグアイは南米でも小さな国の一つであり、西南方面にあるアルゼンチン、北にあるブラジルへ渡航中のユダヤ人移民に、中継地として利用されてきた。ユダヤ人入植の歴史は1880年代までさかのぼる。ウルグアイのユダヤ人の中で、75%は東欧から来たとされており、残りは西欧系とセファルディ系である。1930年代には、多くのユダヤ人がナチスの迫害を逃れようとドイツからウルグアイに逃亡してきた。ここ数十年は、ユダヤ人の人口は減少しつつあるが、1948年以来、6,800人のユダヤ人がイスラエルに移民したと推測されている。

■ウルグアイという国は、イスラエルとユダヤ人にとって頼もしい味方である。南米の中でイスラエルを最初に承認した国であり、48年11月にモン

テビデオに、南米大陸における最初のイスラエル大使館が承認された。92年、当時のウルグアイ大統領であった、ルイス・アルベルト・ラカレ博士は、ブリュッセルで開催された「変わりゆく世界における反ユダヤ主義と差別に関する世界会議」に招かれた。会議中、同博士は、ウルグアイはユダヤ・キリスト教の原理に従って歩んできた、と述べた。ウルグアイは、ほかの南米諸国と違って、率先して宗教裁判を行うことはしなかったからである。

■ウルグアイに着いたユダヤ人たちは、小さな商売や軽工業、行商、職人などの仕事に携わっていた。70年代になると、産業、繊維、家具、医薬製品、電子製品などが彼らの職業として定着し、今日では、ウルグアイのユダヤ人の大半は中産階級と見なされている。その中には、政府の要職に上り詰めた人もいる。

■移民の一世は、仕事関係以外にユダヤ人でない人とのつき合いはあまりなかったが、二世以降になると統合や同化が進んだ。今でもユダヤ人家族のきずなは強く、結婚するまで親と同居する子どもが多く、結婚した後でも、経済的な理由で親と同居することもある。世俗主義が共同体に及ぼす影響がないわけではないが、基本的な伝統は、まだ守られていると言えよう。


 祈りの課題

☆反ユダヤ主義への恐怖に立ち向かって。

☆ウルグアイのユダヤ人が世俗主義に満足せず、本当の霊的眞実を慕い求めるように。

☆この国を支配している、まじないや魔術の影響からユダヤ人が守られるように。

☆ウルグアイのユダヤ人コミュニティーの救いのために。

☆彼らが、神が彼らの人生において用意された、すべてのご計画に沿って歩むように。

☆党派心、孤立根性、プライド、分裂を起こす霊に立ち向かって。

☆信教の自由やユダヤ系住民を守ってきたウルグアイに、主の祝福が臨むように。

